

注意事項

- 1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
- 2. 解答方法は次のとおりである。

(例 1)、(例 2) 及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務が行えるのはどれか。

- 1. 合格発表日以降
- 2. 合格証書受領日以降
- 3. 助産師籍登録日以降
- 4. 免許証受領日以降

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	●	④

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	●
④	④

(例2)

102 助産師国家試験の受験資格が規定されているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、	答案用紙②の場合、
102 ① ② ③ ④ ⑤	102 ① ①
↓	② ②
102 ① ② ③ ● ⑤	③ → ③
	④ ●
	⑤ ⑤

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、	答案用紙②の場合、
103 ① ② ③ ④ ⑤	103 ① ●
↓	② ②
103 ● ② ③ ④ ●	③ → ③
	④ ④
	⑤ ●

- 1 日本で着床前診断の対象となる疾患はどれか。
 1. フェニルケトン尿症
 2. Down〈ダウン〉症候群
 3. Turner〈ターナー〉症候群
 4. Duchenne〈デュシェンヌ〉型筋ジストロフィー

- 2 月経前症候群の身体症状に主に関わるホルモンを分泌するのはどれか。
 1. 卵 巢
 2. 脳下垂体前葉
 3. 脳下垂体後葉
 4. 視床下部

- 3 授乳が禁止となる薬剤はどれか。
 1. アンピシリン
 2. プレドニゾロン
 3. メトトレキサート
 4. アセトアミノフェン

- 4 卵膜を構成するもので母体に由来するのはどれか。
 1. 羊 膜
 2. 脱落膜
 3. 絨毛膜
 4. 結合組織層

5 妊娠に伴う変化で正しいのはどれか。

1. 心拍出量は減少する。
2. 腎血漿流量は減少する。
3. 循環血流量は減少する。
4. 腎の糸球体濾過率は増加する。

6 頭位分娩での児頭の応形機能について正しいのはどれか。

1. 前方後頭位では大斜径が短縮する。
2. 児頭の変形は分娩後約1か月持続する。
3. 両頭頂骨の上に前頭骨・後頭骨が重なる。
4. 後在頭頂骨が前在頭頂骨の下方に進入する。

7 39歳の初産婦。双胎妊娠による切迫早産で4週間の安静入院後、妊娠37週で帝王切開となった。手術翌日の子宮底の高さは臍下1横指で収縮は良好である。Hb 10.2 g/dl。初回歩行時、軽度下肢の痛みを感じたがしばらくして痛みは落ち着いた。脈拍72/分、血圧118/56 mmHg。初回歩行の2時間後にトイレまで歩行した際、トイレ内で突然意識を消失した。

考えられる状態はどれか。

1. 子 癇
2. 脳虚血
3. 肺血栓塞栓症
4. 出血性ショック

8 60歳の女性。排尿困難を主訴として来院した。膀胱と子宮頸部が膣口まで下垂しており、医師は骨盤臓器脱と診断し、排尿障害の治療のためにリングペッサリーを膣内に装着した。

この女性への指導として正しいのはどれか。

1. 「入浴時には外してください」
2. 「スポーツは控えてください」
3. 「装着したまま性交渉が可能です」
4. 「長時間の外出は控えてください」

9 25歳の初産婦。妊娠40週5日で、3,850gの児を正常分娩した。弛緩出血で、約2,000ml出血した。現在分娩後2時間、子宮収縮は良好である。脈拍130/分、血圧80/50mmHg。産婦は意識清明であるが悪心を訴えており、四肢の冷感を認めた。

直ちに行われる処置はどれか。

1. 全身を温める。
2. 輸血を開始する。
3. 気管内挿管する。
4. 副腎皮質ステロイドを投与する。

10 妊娠20週の双胎妊娠の女性。会社員。非妊時BMIは21.5。現在、非妊時体重より4kg増加している。

保健指導で適切なのはどれか。

1. 「マタニティビクスをしましょう」
2. 「次の妊婦健康診査は4週間になります」
3. 「分娩予定日の16週間前から休業できます」
4. 「非妊時から分娩時までの体重増加の目安は11～14kgです」

11 会陰裂傷第3度があった産婦への対応で正しいのはどれか。

1. 直腸診を行う。
2. 直腸筋層まで縫合する。
3. 食事は低残渣食とする。
4. 翌日に浣腸を行う。

12 Brandt-Andrews〈ブランド・アンドリュース〉胎盤圧出法で適切なのはどれか。

1. 胎盤剝離徴候を確認する前に実施する。
2. 片手を腹壁から子宮体と子宮下部の境の部位に当てる。
3. 最初に腹壁に当てた手で子宮体を恥骨部側に押し下げる。
4. 臍帯は牽引しないようにする。

13 34歳の1回経産婦。前回正常分娩で2,700gの児を出産した。妊娠39週3日。身長145cm、体重58kg。児頭大横径(BPD)9.6cm。午後2時30分に自然破水した。内診所見は、子宮口全開大、Station -3、矢状縫合は横径に一致していた。午後4時、陣痛間欠1～2分、陣痛発作60秒。内診所見では、児頭の下降度に変化がなかった。胎児心拍数陣痛図は正常波形である。

対応で適切なのはどれか。

1. 散歩を勧める。
2. 絶飲食とする。
3. 乳頭刺激をする。
4. 子宮収縮薬の準備をする。

14 28歳の初産婦。3,400gの児を正常分娩で出産した。分娩時出血は650ml。会陰裂傷第2度と膣壁裂傷とがあり、縫合術を受けた。分娩後3時間、体温37.3℃、脈拍88/分、血圧120/70mmHg。子宮底は臍下2横指で硬く触れる。赤色出血が1時間で40g。「お尻のあたりが痛い」と激しい痛みを訴え、苦痛表情だが脱肛はない。会陰部に腫脹はなく縫合不全もない。

最も考えられるのはどれか。

1. 頸管裂傷
2. 膣壁血腫
3. 弛緩出血
4. 後陣痛

15 NYHA分類でI度の心疾患合併妊婦の管理で適切なのはどれか。

1. 選択的帝王切開を勧める。
2. 妊娠初期から入院を勧める。
3. 生活の中に一定の休息時間を設ける。
4. インフルエンザワクチンの接種を控えるように説明する。

16 市町村における次世代育成支援の行動計画策定で適切なのはどれか。

1. 民間事業者の活用は控える。
2. 他の市町村と類似した計画とする。
3. 社会的養護を必要とする子どもへの対応を検討する。
4. 夫婦と子ども2人の世帯を想定して対策を検討する。

17 母体保護法の目的で正しいのはどれか。

1. 母子の生活を支援する。
2. 母子保健事業を推進する。
3. 母性の生命健康を保護する。
4. 母子家庭および寡婦の福祉を保護する。

18 助産師の守秘義務違反と**ならない**のはどれか。

1. 妊婦の夫が有名人であることを友人の助産師に話した。
2. 妊婦のパートナーが失業していたことを妊婦の母親に伝えた。
3. 昨日の感動的な出産をしたAさんのことを妊婦である友人に話した。
4. 5歳の子どもの腹部に複数の内出血があることを児童相談所に伝えた。

19 助産業務について正しいのはどれか。

1. 臨時応急の手当であっても医行為を行ってはならない。
2. 医師の指示の下に行った行為は責任を問われない。
3. 業務の範囲内において裁量権がある。
4. 死胎の検案はできない。

20 男性側の不妊原因で最も多いのはどれか。

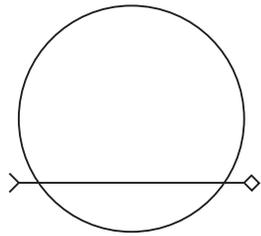
1. 造精機能障害
2. 精路通過障害
3. 勃起障害
4. 射精障害
5. 性欲低下

21 第2頭位で、児頭の最大周囲径が骨盤入口部にある図を示す。

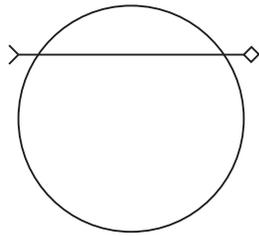
前頭頂骨進入はどれか。

ただし、図の上が母体腹側、下が母体背側を示す。円は骨盤入口面、◇印は大泉門、∟印は小泉門を表す。

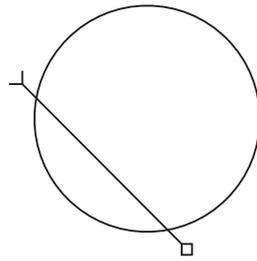
1.



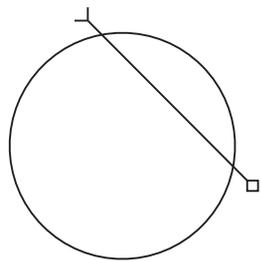
2.



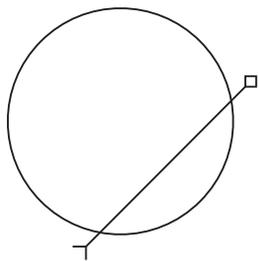
3.



4.



5.



22 妊婦の下肢のけいれんについて正しいのはどれか。

1. 膝窩筋に起こりやすい。
2. 妊娠初期に発症頻度が高い。
3. 血中のカルシウムの増加が原因となる。
4. 予防としてリン酸の過剰摂取を避ける。
5. 予防として就寝時は下肢の底屈位をとる。

23 鉗子分娩を安全に行うために満たすべき条件はどれか。

1. 小泉門が先進している。
2. 胎児の状態が良好である。
3. 子宮口が全開大している。
4. Station が±0 以下である。
5. 矢状縫合が縦になっている。

24 母乳哺育を行っている生後1か月の正期産児において、母乳不足を疑う所見はどれか。

1. 平均体重増加量 27 g/日
2. 哺乳時間 40～50 分/回
3. Kaup〈カウプ〉指数 17
4. 哺乳回数 8～10/日
5. 粘液便の排泄

25 助産録の記載事項として保健師助産師看護師法施行規則に規定されていないのはどれか。

1. 児の性別
2. 分娩の場所
3. 妊産婦の住所
4. 妊産婦の国籍
5. 胎児付属物の所見

26 妊娠 27 週 5 日で出生した 1,050 g の児。

皮膚の観察でみられるのはどれか。2 つ選べ。

1. 硝子様透明
2. 稗粒腫
3. 胎 脂
4. 落 屑
5. 産 毛

27 Rubin〈ルービン〉の示す母親役割行動における保持期の特徴で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 家族との関係を再調整する。
2. 育児技術の習得に向けて努力する。
3. 自らの基本的欲求を満たそうとする。
4. 母乳が十分分泌するかに関心を向ける。
5. 出産によって、子どもと分離したという認識をもつ。

28 胎児機能不全を起こしやすい臍帯の所見はどれか。2つ選べ。

1. 臍帯偽結節がある。
2. 臍帯の長さが25 cmである。
3. 臍帯が卵膜に付着している。
4. 臍動脈が2本、臍静脈が1本である。
5. 臍帯の太さが1.5 cm × 1.5 cmである。

29 低出生体重児で出生後早期に起こりやすいのはどれか。2つ選べ。

1. 一過性多呼吸
2. 顔面神経麻痺
3. 上腕神経叢麻痺
4. 胎便吸引症候群
5. 低カルシウム血症

30 36歳の初産婦。身長160cm、非妊時体重56kgであった。妊娠26週2日、体重60kg、血圧142/78mmHg。尿蛋白+、尿糖(±)。Hb10.5g/dl。子宮底長30cm、腹囲93cm。下腿浮腫(±)。1週間前から腰痛がある。腹部緊満感が頻回にある。内診所見は、子宮口閉鎖、出血はない。

妊婦への指導で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 入浴を制限する。
2. 鉄分の多い食材を勧める。
3. 摂取カロリーを制限する。
4. 1日1時間程度の散歩を勧める。
5. 腹部緊満感のあるときは休息をとる。

31 助産所業務ガイドラインで、嘱託医療機関に緊急に搬送すべき新生児の症状とされているのはどれか。2つ選べ。

1. 直腸温38.1℃
2. 出生時体重2,400g
3. 生後12時間排便がない。
4. 生後18時間に黄疸を認める。
5. 他症状のない生後6時間の心雑音

32 第1前方後頭位の分娩経過で Station +3 のときの所見について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 矢状縫合は左斜径に一致する。
2. 小泉門は10時方向に触れる。
3. 恥骨結合後面3分の2を触知できる。
4. 児頭の最大周囲径は骨盤峽部にある。
5. Hodge〈ホッジ〉骨盤平行平面区分法では第4平行平面である。

33 2010年版の「日本人の食事摂取基準」で授乳婦に付加量が設定されている栄養素はどれか。2つ選べ。

1. カルシウム
2. ビタミンA
3. ビタミンK
4. 食物繊維
5. 鉄

34 子宮筋腫合併妊婦。妊娠34週で、子宮底部の筋層内筋腫は直径8cmであり、胎盤付着位置は筋腫の直上である。

特に注意すべき産科合併症はどれか。2つ選べ。

1. 常位胎盤早期剥離
2. 児頭骨盤不均衡
3. 分娩後出血
4. 過強陣痛
5. 頸管裂傷

35 セルフヘルプグループ活動はどれか。2つ選べ。

1. 死産を経験した母親の会
2. 助産所が主催する両親学級
3. 21トリソミーの児をもつ親の会
4. 高齢初産婦を対象とした出産準備教室
5. 助産師によるベビーマッサージの講習会

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

14歳の女性。月経周期は28日型であったが、2か月間月経がなかったため、母親に付き添われ思春期外来を受診した。初経は10歳。身長157 cm、体重45 kg。脈拍64/分、血圧110/70 mmHg。全身所見に異常はなかった。

36 母親は「娘は、朝は牛乳だけ、夕食もほとんど残している。給食は少し食べているようだが、痩せてきていて心配です」と話す。本人は「自分は太っていてかわいくない。友達から好かれるために、もっと痩せなくてはいけないから今以上は食べたくありません」と話す。

この時点で思春期やせ症の診断基準を満たすのはどれか。

1. 脈拍数
2. 肥満度
3. 月経周期
4. 本人の自身に対する身体像

37 診察の結果、乳房、陰毛の発育は良好。妊娠反応は陰性。既往歴に特記すべきことはない。血液検査は、FSH 6.0 mIU/ml、LH 3.0 mIU/mlであった。エストロゲンとプロゲステロン(黄体ホルモン製剤)を投与した後に消退出血が認められた。

最も疑われるのはどれか。

1. 視床下部性無月経
2. 下垂体性無月経
3. 卵巣性無月経
4. 子宮性無月経

38 初診から1か月が経過した。無月経の治療と、専門カウンセラーによるカウンセリングを受けている。初診時は、食べることを強く拒否していたが、最近は食べることを受け入れるようになってきた。初診時より体重が2kg減少した。

食事に関する対応で適切なのはどれか。

1. 食事の代わりに経腸栄養剤を摂取する。
2. 食事の量は、残さず摂取できる量から段階的に増量する。
3. 毎日の生活に運動を取り入れ、空腹になるようにする。
4. 治療により月経が開始した後に、食生活の改善をはかる。

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

29歳の経産婦。妊娠37週0日。不規則な子宮収縮を主訴に午後10時に来院した。妊娠経過は良好であった。身長165cm、体重55kg。推定児体重3,400g。胎児心拍数陣痛図では陣痛間欠8分、発作40秒。胎児心拍基線140bpm、胎児心拍細変動は良好で、一過性頻脈があり、一過性徐脈は出現していない。血性分泌物はない。

39 胎児心音の最良聴取部位は、母体の左側、臍棘線上中央であった。内診所見は、子宮口5cm開大、展退度50%、Station -1。陣痛開始しており入院となった。矢状縫合は横径に一致し、大泉門は左側、小泉門は右側に触知できた。

胎児の胎位胎向で正しいのはどれか。

1. 第1後頭位
2. 第1前頭位
3. 第2後頭位
4. 第2前頭位

40 陣痛開始から6時間が経過した。陣痛間欠7分、発作30秒。胎児心拍基線細変動25bpm。陣痛発作時に少し苦悶様の表情がみられたため内診を実施したところ、子宮口6cm開大、展退度60%、Station -1。矢状縫合は右斜径に一致し、小泉門が2時方向に触れた。発作時、胎胞を触知する。血性分泌物少量。

この所見から考えられる状態はどれか。

1. 微弱陣痛
2. 回旋異常
3. 早期破水
4. 胎児機能不全

41 休息と活動を組み入れながら観察し、陣痛開始から16時間が経過した。陣痛間欠6分、発作40秒。内診所見は、子宮口8cm開大、展退度80%、Station+1。胎児心拍数陣痛図では胎児心拍基線140bpm、基線細変動6～25bpm、最下点90bpm、回復まで40秒の変動一過性徐脈が2回みられた。入院してからあまり眠れていないという。

対応で適切なのはどれか。

1. 経過観察する。
2. 院内の階段昇降を促す。
3. 医師と子宮収縮薬の使用について相談する。
4. 帝王切開の準備をする。

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

32歳の女性。身長160 cm、体重70 kg。月経周期が不規則であったが、市販の妊娠検査薬が陽性であったため来院した。血圧134/80 mmHg。尿蛋白(－)、尿糖(－)であった。

42 最終月経から算出した妊娠週数は8週0日である。超音波検査では、子宮内に胎嚢(GS)は確認されたが、胎芽は認められなかった。

この時点の対応で適切なのはどれか。

1. 入院
2. 自宅安静
3. 1週後に再診
4. 4週後に妊婦健康診査

43 妊娠12週。早朝の悪心と軽度の倦怠感がある。体重72 kg。血圧132/80 mmHg。尿蛋白(－)、尿糖(－)、尿ケトン体(－)。胎児の発育は良好である。

保健指導で最も適切なのはどれか。

1. 「散歩をしましょう」
2. 「1日2食にしましょう」
3. 「果物は好きなだけ食べましょう」
4. 「マタニティスイミングを始めましょう」

44 その後、妊娠経過は順調であったが、妊娠 22 週の妊婦健康診査で、血圧 160/95 mmHg。尿蛋白+。軽度の頭重感が出現した。

病型分類で正しいのはどれか。

1. 本態性高血圧
2. 妊娠高血圧
3. 妊娠高血圧腎症
4. 加重型妊娠高血圧腎症

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

21歳の初産婦。妊娠経過は順調であった。妊娠40週5日に3,600gの児を正常分娩で出産した。分娩所要時間第1期20時間、第2期3時間、総出血量400mlであった。会陰切開縫合術を受けた。帰室後、食事を全量摂取し、初回授乳を行った。乳房の形はⅢ型であり、短乳頭であった。

45 分娩後5時間、褥婦は尿意を感じ、トイレに歩行したが尿は出なかった。子宮底の高さは臍下2横指、子宮は硬く流血はない。会陰切開縫合部の腫脹と発赤はない。触診で膀胱充満がみられた。

褥婦のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 一過性の尿道括約筋の攣縮をきたしている。
2. 膀胱の筋緊張が上昇している。
3. 膀胱の炎症が起きている。
4. 脱水を起こしている。

46 産褥1日、褥婦は「縫ったところが痛くて、授乳するのがつらいです」と訴えた。会陰縫合部の出血、腫脹および発赤はない。

褥婦の会陰部痛を軽減するためのケアとして有効なのはどれか。2つ選べ。

1. 会陰部のマッサージ
2. 縫合部の冷湿布
3. 縫合部の消毒
4. 縫合部の圧迫
5. 円座の使用

47 退院後2週、褥婦は夫に付き添われて母乳外来を訪れた。「昨夜からおっぱいが痛かったです。今日の昼食後、急に寒気がして熱を測ったら38.0℃で、驚いたのですぐにきました」と震えながら話した。

最も優先度の高い観察項目はどれか。

1. 血乳の有無
2. 副乳の有無
3. 乳頭亀裂の有無
4. 乳房の硬結の有無
5. 乳房の大きさの左右差

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

在胎 38 週 3 日、吸引分娩で出生した児。分娩中の経過は良好で、排臨後、胎児心拍数が 70 bpm に低下し、2 分後に出生した。羊水混濁が軽度あり、児の啼泣は弱く、筋緊張低下を認める。身長 49.5 cm、体重 3,200 g。

48 出生直後の児への処置として正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 胸骨圧迫を開始する。
2. 気管吸引を繰り返す。
3. 乾いたタオルでよく拭く。
4. 児の背部を優しく刺激する。
5. バッグ・マスク換気を開始する。

49 生後 3 日。体重 2,900 g、頭囲 32.5 cm。体温 36.7℃、呼吸数 52/分、心拍数 114/分、整。大泉門 1.4 cm × 1.5 cm、膨隆はなし。先進部の頭頂に浮腫状の腫脹を認める。頬を触った指の方向に口を向ける。便は黄色調で血清総ビリルビン 14.0 mg/dl である。

この児のアセスメントで正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 頭血腫がある。
2. 多呼吸である。
3. 高ビリルビン血症である。
4. 生理的範囲の大泉門である。
5. 探索〈ルーティング〉反射がある。

50 生後5日。体重2,890gで体重減少が続いている。母乳のみを哺乳している。
哺乳量不足を疑う情報として重要なのはどれか。

1. 体温が37.3℃である。
2. 下肢に落屑がみられる。
3. 授乳間隔が2時間ごとである。
4. 過去24時間の排尿回数が4回である。
5. 血清総ビリルビン値15.0mg/dlである。

次の文を読み 51、52 の問いに答えよ。

29歳の経産婦。12月1日に、妊娠41週2日で、予定日超過の管理目的で入院した。4歳の第1子が4日前にインフルエンザに罹患して保育所を休んでいる。家族内の誰もインフルエンザワクチンを接種していなかった。

51 12月2日、夫は分娩の立会いを希望しているが、この日の朝から38.0℃の発熱と関節痛がある。

夫の分娩の立会いに関する対応で適切なのはどれか。

1. 夫の立会いは許可しない。
2. 隔離した分娩室での出産とし、立会いを許可する。
3. 夫にマスクとガウン着用の上で立会いを許可する。
4. 妊婦にインフルエンザワクチンを接種し、立会いを許可する。
5. 夫が抗インフルエンザウイルス剤を内服した上で立会いを許可する。

52 12月3日に正常分娩をした。褥婦は分娩の8時間前から悪寒を訴えており、分娩時には38.5℃の発熱があった。迅速診断でインフルエンザと診断されたため、抗インフルエンザウイルス剤の内服を開始した。分娩後2時間、母親は初回歩行できており、体温は38.0℃、咳はなく倦怠感も強くない。母乳哺育を希望している。児の体温37.0℃、脈拍125/分、呼吸数45/分。活発に四肢を動かしている。

感染対策上、最も適切なのはどれか。

1. 感染症病棟で母子同室
2. 産科病棟の個室で母子同室
3. 産科病棟の大部屋で母子同室
4. 児をNICU入院とした母子異室
5. 児を新生児室管理とした母子異室

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

32歳の経産婦。妊娠41週2日に分娩誘発のために診療所に入院した。妊娠中期まで喫煙3本/日。入院時ビショップスコア8点。翌朝、オキシトシン点滴静脈内注射2ミリ単位/分から誘発分娩が開始となった。午後3時、授乳室にいた助産師は、胎児心拍モニター音で児心拍数が急激に70bpm台に低下したことに気づき、陣痛室に行き内診した。自然破水しており、子宮口7cm開大、臍帯脱出を認めた。

診療所は6床。この日の診療所の医療従事者の勤務体制は、外来に産婦人科医2名、看護師2名、病棟に助産師1名、看護師1名が勤務していた。

53 この時点の対応として最も適切なのはどれか。

1. 臍帯の還納を試みる。
2. 外来の医師に電話をかけに行く。
3. 内診指で児頭を持ち上げながら人を呼ぶ。
4. 新生児搬送のために近隣の医療機関に連絡する。

54 このような分娩のために診療所に準備しておくべきもので、最も適切なのはどれか。

1. 血糖測定器
2. 心電図モニター
3. 新生児用バッグ・マスク
4. 人工肺サーファクタント

55 今回の事例から医療安全対策として検討する内容で最も適切なのはどれか。

1. 看護職員の勤務配置
2. 子宮収縮薬の開始時投与量
3. 予定日超過妊婦の分娩方針
4. 喫煙している妊婦に対する保健指導

